

福島県文化財調査報告書 第543集

福島県内遺跡分布調査報告 27

2020年10月

福島県教育委員会

福島県内遺跡分布調査報告27

序 文

福島県教育委員会では、開発事業等が行われる前に分布調査及び試掘・確認調査を実施し、関係機関との協議をすることにより、埋蔵文化財の保護に努めています。

令和元年度は、2市2町の区域内で計画された4事業の分布調査及び試掘・確認調査を実施しました。浜通り地方では、通称小名浜道路に関連する4箇所を試掘・確認調査を実施しました。中通り地方では、郡山市において阿武隈川上流河川改修事業関連の2箇所、矢祭町において国道349号改良工事関連の1箇所で、試掘・確認調査を実施しました。会津地方では、金山町において只見川河川整備事業に関連する2箇所の試掘・確認調査を実施しました。

試掘・確認調査の結果、周知の埋蔵文化財包蔵地2箇所、合計4,800㎡の範囲で埋蔵文化財を確認し、調査成果を埋蔵文化財保護のための資料にとどまらず、地域の歴史を解明するための基礎資料となり、広く県民の皆様にご活用いただければ幸いです。

最後に、この調査に御協力いただいた当該市町村教育委員会をはじめとする関係機関、関係各位に深く感謝の意を表します。

令和2年10月

福島県教育委員会

教育長 鈴木 淳一

緒 言

- 1 本書は、令和元年度に実施した国道349号改良工事(下関工区)、主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)、只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)、阿武隈川上流河川改修事業(黒田地区・御代田地区)の各建設予定地内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地(試掘調査により遺跡の存否を確認する地点)の試掘・確認調査の報告書である。
- 2 この調査は、埋蔵文化財緊急調査費国庫補助を受け福島県教育委員会が実施した。
- 3 福島県教育委員会は、調査を公益財団法人福島県文化振興財団に委託した。
- 4 福島県教育委員会は、この調査にあたり下記の職員を配置した。
専門文化財主査 阿部 智彦
文化財主査 岡部 睦美
- 5 公益財団法人福島県文化振興財団は、下記の職員を配置して調査を実施した。
専門文化財主査 菅原 祥夫
- 6 本書は、福島県教育庁文化財課職員及び公益財団法人福島県文化振興財団(遺跡調査部県内遺跡分布調査担当)の職員が執筆した。
- 7 調査にあたっては、地元地権者・地権者会・行政区長をはじめ下記の機関に多くの協力をいただいた。
いわき市教育委員会 郡山市教育委員会 矢祭町教育委員会 金山町教育委員会
福島県土木部(いわき建設事務所・県南建設事務所・会津若松建設事務所)
国土交通省東北地方整備局(郡山国道事務所)
- 8 事業名称の長いものは、一部省略した表現を用いた。
- 9 本書に使用した調査記録は、福島県教育委員会が保管している。

用 例

1 本書における用例は次のとおりである。

- (1) 周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地の位置図は、国土交通省国土地理院発行縮尺1/25,000の地形図(磐城泉・田母神)および1/50,000の地形図(郡山・只見・宮下・野沢)を、事業の位置図は、国土交通省国土地理院発行縮尺1/200,000の地形図(福島・白河・新潟)を複製したものを使用している。
- (2) トレンチ配置図は、各事業主体作製の縮尺1/1,000・1/2,000・1/25,000の地形図を基とした。

2 本書第2章における周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地及びトレンチ配置図の用例は次のとおりである。

- (1) : 保存協議を要すると判断した範囲
- (2) : 未試掘範囲
- (3) : 未確定範囲
- (4) : 遺構・遺物が確認できなかった範囲
- (5) : 遺構・遺物が確認できたトレンチ
- (6) : 遺構・遺物が確認できなかったトレンチ
- (7) : 工事予定範囲
- (8) : 周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲
- (9) : 分布調査による埋蔵文化財包蔵推定地の範囲

3 埋蔵文化財包蔵推定地の名称は便宜上アルファベットの「B」と算用数字を組合せて表記するが、試掘調査によって遺跡であることが確定すれば所在地の字名や地名をとり、新たに遺跡名称を付している。

4 各遺跡の呼び方は、『日本地名大辞典7福島県』(角川書店)収録の「小字一覧」にならったが、通称が定着しているときは、それに従った。

5 遺構図の用例は次のとおりである。

- (1) 平面図の縮尺は、基本的に各挿図版の右下(スケール右側)に記した。
- (2) 検出した遺構は、網点で表示した。
- (3) 土色の判定に際しては、『新版標準土色帖』(日本色研事業株式会社)を用いた。

6 本書で使用した略号は、次のとおりである。

T	: トレンチ	L	: 遺構外堆積土	ℓ	: 遺構内堆積土
SK	: 土 坑	SD	: 溝 跡	P	: 小 穴
KY	: 金 山 町	IWK	: いわき市		

目 次

第1章 県内遺跡分布調査の概要	1	
第2章 試掘・確認調査	4	
第1節 国道349号改良工事(下関工区)建設予定地	4	
1 矢祭町の遺跡		
宮平遺跡(第2次調査)(4)		
第2節 主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)建設予定地	5	
1 いわき市の遺跡		
IWK-B2(6)	IWK-B3(7)	IWK-B4(7)
IWK-B13(8)		
第3節 只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)建設予定地	9	
1 金山町の遺跡		
中丸城跡(9)	KY-B6(12)	
第4節 阿武隈川上流河川改修事業(黒田地区・御代田地区)建設予定地	14	
1 郡山市の遺跡		
黒田遺跡(14)	徳定A・B遺跡(第3次調査)(17)	
第3章 総 括	20	
1 国道349号改良工事(下関工区)建設予定地		
2 主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)建設予定地		
3 只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)建設予定地		
4 阿武隈川上流河川改修事業(黒田地区・御代田地区)建設予定地		
報告書抄録	23	

挿図・表・写真目次

〔挿 図〕

第1章

図1 熊内遺跡分布調査位置	1
---------------	---

第2章

図2 矢祭町の遺跡	4
図3 宮平遺跡トレンチ配置	5
図4 主要地方道上三坂小野線(小名浜道路位置)	5
図5 いわき市の遺跡	6
図6 IWK-B2トレンチ配置	7
図7 IWK-B3・B4トレンチ配置	7
図8 IWK-B13トレンチ配置	8

〔表〕

第1章

表1 国道349号改良工事(下関工区)	
試掘・確認調査遺跡一覧	2・3
表2 主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)	
試掘・確認調査遺跡一覧	2・3
表3 只見川河川整備事業試掘・確認調査遺跡一覧	2・3
表4 阿武隈川上流河川改修事業(黒田地区・御代田地区)	
試掘・確認調査遺跡一覧	2・3

第2章

表5 中丸城跡トレンチ一覧	12
表6 KY-B6トレンチ一覧	12

〔写 真〕

第2章

1 中丸城跡 6T小穴検出(東から)	11
2 中丸城跡 6TP1断面(南から)	11
3 KY-B6 現況(南東から)	13
4 黒田遺跡 現況(北西から)	14

図9 只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)	9
図10 金山町の遺跡(1)	10
図11 金山町の遺跡(2)	11
図12 中丸城跡検出遺構・土層	11
図13 中丸城跡トレンチ配置	12
図14 KY-B6トレンチ配置	13
図15 郡山市の遺跡	15
図16 黒田遺跡トレンチ配置	16
図17 黒田遺跡検出遺構・土層・出土遺物	17
図18 徳定A・B遺跡検出遺構・土層・出土遺物	18
図19 徳定A・B遺跡トレンチ配置	19

表7 黒田遺跡トレンチ一覧	17
表8 徳定A・B遺跡トレンチ一覧	19

第3章

表9 国道349号改良工事関連	
試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(矢祭町)	20
表10 主要地方道いわき上三坂小野線関連	
試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(いわき市)	21
表11 只見川河川整備事業関連	
試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(金山町)	21
表12 阿武隈川上流河川改修事業関連	
試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(郡山市)	22

5 黒田遺跡 24T遺物出土状況(北西から)	14
6 黒田遺跡 46T土坑検出状況(南から)	17
7 徳定A・B遺跡 現況(南から)	18
8 徳定A・B遺跡 8T溝跡検出(北東から)	18
9 徳定A・B遺跡 作業風景(西から)	19

第1章 県内遺跡分布調査の概要

令和元年度は、主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)、国道349号改良工事(下関工区)、只見川河川整備事業(横田地区・越川地区)、阿武隈川上流河川改修事業(黒田地区・御代田地区)の4事業(2市2町)についての試掘・確認調査を公益財団法人福島県文化振興財団に委託して実施した。

【国道349号改良工事(下関工区)】

矢祭町における計画路線内の1箇所、1,100㎡の周知の埋蔵文化財包蔵地を対象に確認調査を実施した。保存対象箇所は確認できなかった。

なお、これをもって、国道349号改良工事(下関工区)の試掘・確認調査はすべて終了した。

【主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)】

いわき市における計画路線内の4箇所、計16,300㎡の埋蔵文化財包蔵推定地を対象に試掘調査を実施した。保存対象箇所は確認できなかった。

【只見川河川整備事業(横田地区・越川地区)】

金山町における計画地内の2箇所、3,500㎡の周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地を対象に確認調査を実施した。その結果、中丸城跡で遺構、KY-B6で遺物を確認したが、今回の調査面積は、工区内の対象面積全体に占める割合が小さいため、保存範囲は未確定とし、次年度以降の調査結果を待って判断することとした。

【阿武隈川上流河川改修事業(黒田地区・御代田地区)】

郡山市における計画地内の2箇所、計31,100㎡の周知の埋蔵文化財包蔵地を対象に確認調査を実施した。その結果、黒田遺跡、徳定A・B遺跡で遺構・遺物を確認し、黒田遺跡では1,800㎡、徳定A・B遺跡では3,000㎡を保存範囲とした。

なお、今回で、阿武隈川上流河川改修事業(御代田地区)の試掘・確認調査はすべて終了した。

【分布調査】

令和元年度は実施しなかったが、只見町における只見川河川整備事業の計画地内(蒲生地区～只見地区)の分布調査が未実施のため(『福島県内遺跡分布調査報告26』)、次年度以降に実施の必要がある。

また、平成30年度に分布調査を実施した同事業の会津坂下町～金山町における計画地内(片門地区～滝沢地区)についても、ほとんどの地区で具体的な工区範囲が未確定のため、今後提示される図面の内容によっては、補足調査の必要がある。



図1 県内遺跡分布調査位置

表1-1 国道349号改良工事（下関工区）試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	立地	調査期間	工区内 面積 (㎡)	令和元年度調査			
					対象面積 (㎡)	トレンチ		割合
						本数	掘削面積 (㎡)	
官平遺跡	矢祭町大字下関河内字宮平	丘陵	R 1.5.27～5.28	3,500	1,100	4	46.0	4.2%
国道349号改良工事（矢祭町） 合計（1）				3,500	1,100	4	46.0	4.2%

表2-1 主要地方道いわき上三坂小野線（小名浜道路）試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	立地	調査期間	工区内 面積 (㎡)	令和元年度調査			
					対象面積 (㎡)	トレンチ		割合
						本数	掘削面積 (㎡)	
IWK-B2	いわき市湯野町穴下	丘陵	R 1.6.17～6.18	2,100	2,100	4	36.0	1.8%
IWK-B3	いわき市湯野町古防	丘陵	R 1.6.19	1,100	1,100	3	31.5	2.9%
IWK-B4	いわき市湯野町古防	丘陵	R 1.6.20～6.21	1,800	1,800	5	52.5	2.9%
IWK-B13	いわき市山田町砂方	河岸段丘	R 1.11.25～12.3	11,300	11,300	20	322.5	2.9%
小名浜道路（いわき市） 合計（2）				16,300	16,300	32	442.5	2.7%

表3-1 只見川河川整備事業試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	立地	調査期間	工区内 面積 (㎡)	令和元年度調査			
					対象面積 (㎡)	トレンチ		割合
						本数	掘削面積 (㎡)	
中丸城跡	金山町大字横田	丘陵	R 1.9.7～9.11	7,300	2,600	7	70.5	2.7%
KY-B6	金山町大字越川	丘陵	R 1.9.12～9.13	6,400	900	1	14.4	1.6%
只見川河川整備事業（金山町） 合計（3）				13,700	3,500	8	84.9	2.4%

表4-1 阿武隈川上流河川改修事業（黒田地区・御代田地区）試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	所在地	立地	調査期間	工区内 面積 (㎡)	令和元年度調査			
					対象面積 (㎡)	トレンチ		割合
						本数	掘削面積 (㎡)	
黒田遺跡	郡山市西田町鬼生田字黒田	自然堤防	R 1.9.2～10.16	27,100	27,100	55	1001.0	3.7%
惣定A・B遺跡	郡山市田村町惣定・御代田	自然堤防	R 1.11.1～11.8	14,300	4,000	10	152	3.8%
阿武隈川右岸築堤（郡山市） 合計（4）				41,400	31,100	65	1153.0	3.7%
令和元年度試掘・確認調査遺跡 総合計（1）+（2）+（3）+（4）				74,900	52,000	109	1726.4	3.2%

【注】表中のトレンチ内の％は、今年度の試掘・確認調査対象面積に対するトレンチ掘削面積の割合を示す。

表 1-2 国道349号改良工事（下関工区）試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	令和元年度調査結果		取扱い	保存面積 (㎡)	未試掘面積 (㎡)	備 考
	遺 構	遺 物				
宮平遺跡	なし	なし	保存なし	0	0	確認調査終了
国道349号改良工事（矢祭町） 合 計（1）				0	0	

表 2-2 主要地方道いわき上三坂小野線（小名浜道路）試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	令和元年度調査結果		取扱い	保存面積 (㎡)	未試掘面積 (㎡)	備 考
	遺 構	遺 物				
IWK-B2	なし	なし	保存なし	0	0	試掘調査終了
IWK-B3	なし	なし	保存なし	0	0	試掘調査終了
IWK-B4	なし	なし	保存なし	0	0	試掘調査終了
IWK-B13	なし	なし	保存なし	0	0	試掘調査終了
小名浜道路（いわき市） 合 計（2）				0	0	

表 3-2 只見川河川整備事業試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	令和元年度調査結果		取扱い	保存面積 (㎡)	未試掘面積 (㎡)	備 考
	遺 構	遺 物				
中丸城跡	小穴	なし	未確定	0	4,700	
KY-B6	なし	縄文土器・羽片	未確定	0	5,500	
只見川河川整備事業（金山町） 合 計（3）				0	10,200	

表 4-2 阿武隈川上流河川改修事業（黒田地区・御代田地区）試掘・確認調査遺跡一覧

遺跡名	令和元年度調査結果		取扱い	保存面積 (㎡)	未試掘面積 (㎡)	備 考
	遺 構	遺 物				
黒田遺跡	土坑	縄文土器・羽片	一部保存	1,800	0	確認調査終了
徳定A・B遺跡	土坑・溝跡・小穴	土師器	一部保存	3,000	0	確認調査終了
阿武隈川右岸築堤（郡山市） 合 計（4）				4,800	10,200	
令和元年度試掘・確認調査遺跡 総合計（1）+（2）+（3）+（4）				4,800	10,200	

第2章 試掘・確認調査

第1節 国道349号改良工事(下関地区)建設予定地

国道349号改良工事は、矢祭町大拱地区から埴町に至る東白川郡の主要交通路の確保を目的に計画され、現在、福島県土木部県南建設事務所が事業を進めている。埋蔵文化財に関する調査は、平成14年度から矢祭町教育委員会が継続的に実施してきたが、平成29年度から、福島県教育委員会が下関工区に係る試掘・確認調査を実施している。平成29年度に周知の埋蔵文化財包蔵地3箇所、平成30年度に周知の埋蔵文化財包蔵地2箇所の確認調査を実施した結果〔「福島県内遺跡分布調査報告25」、〔同26〕〕、平成29年度に宮平遺跡(2,300㎡)が保存対象となり、平成30年度に本発掘調査を終了した。

本年度は、矢祭町下関河内地区における周知の埋蔵文化財包蔵地1箇所で開催調査を実施した。

1 矢祭町の遺跡

宮平遺跡 (第2次調査)

所在地 矢祭町大字下関河内字宮平

調査対象面積 1,100㎡

保存面積 0㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし

〔概要〕 宮平遺跡は、久慈川支流の小田川に面した低位段丘面に立地し、現状は畑地である。平成28年度の矢祭町教育委員会による確認調査で縄文時代の遺物包含層が確認された成果及び平成29年度の確認調査で、2,300㎡が保存面積となった。

本年度は、工区内の1,100㎡を対象に、4本のトレンチを設定して確認調査を実施した。



図2 矢祭町の遺跡

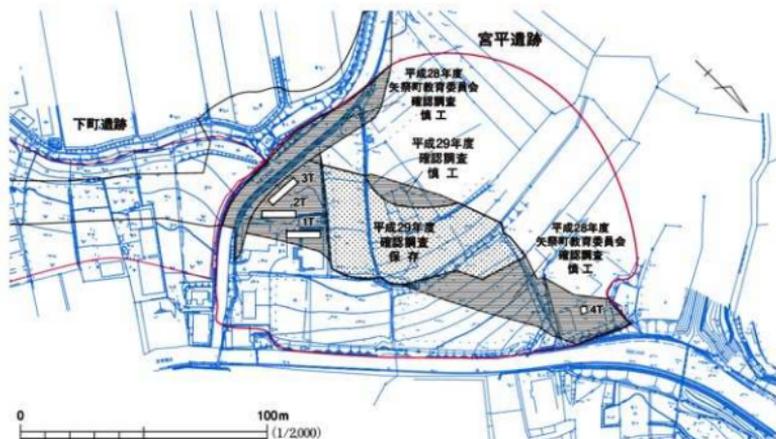


図3 宮平遺跡トレンチ配置

【ま と め】 確認調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。よって、工区内の調査範囲は、保存対象外と判断した。

なお、今回の調査で、宮平遺跡のすべての確認調査は終了した。

第2節 主要地方道いわき上三坂小野線（小名浜道路）建設予定地

主要地方道いわき上三坂小野線（小名浜道路）は、重要港湾小名浜港と常磐自動車道を全長8.3kmの自動車専用道路で結び、広域物流ネットワークの強化によって避難地域の復興を支援するとともに、小名浜湾背後の整備事業と連携し、当地域の産業・観光復興の拠点化を支援する、ふくしま復興再生道路として整備され

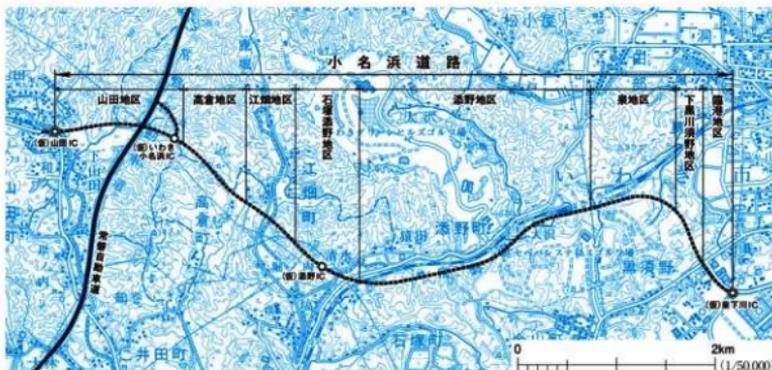


図4 主要地方道上三坂小野線（小名浜道路位置）

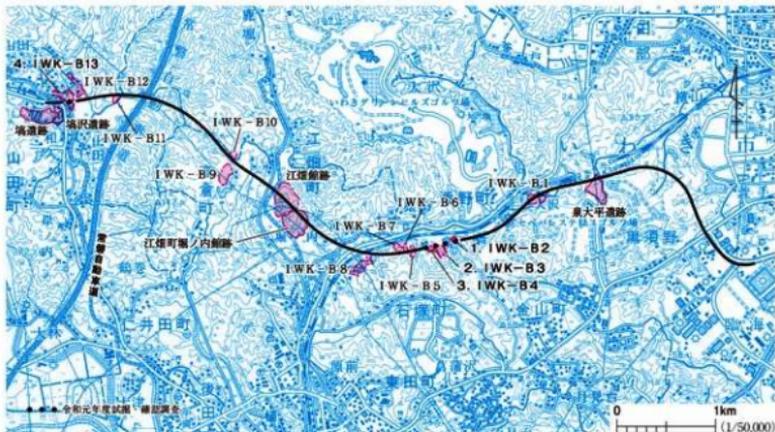


図5 いわき市の遺跡

ることとなった。現在、福島県土木部いわき建設事務所が事業を進めている。

本事業に係る分布調査は平成25年度に実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地3箇所と新規の埋蔵文化財包蔵推定地13箇所を確認した〔『福島県内遺跡分布調査報告21』〕。

その後、平成27年度に周知の埋蔵文化財包蔵地1箇所、平成29年度に周知の埋蔵文化財包蔵地1箇所と埋蔵文化財包蔵推定地1箇所、平成30年度に周知の埋蔵文化財包蔵地1箇所と埋蔵文化財包蔵推定地1箇所の試掘・確認調査を実施した〔『福島県内遺跡分布調査報告23』、〔同25〕、〔同26〕〕。その結果、保存対象箇所は確認されなかった。

本年度は、いわき市添野町地区における埋蔵文化財包蔵推定地3箇所、及び山田町地区における埋蔵文化財包蔵推定地1箇所、試掘調査を実施した。

1 いわき市の遺跡

IWK-B2

所在地 いわき市添野町欠下

調査対象面積 2,100㎡

保存面積 0㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし

【概要】 IWK-B2は、平成25年度の分布調査で新たに追加された埋蔵文化財包蔵推定地である〔『福島県内遺跡分布調査報告21』〕。丘陵西向き斜面に立地し、現況は山林である。

本年度の試掘調査は、工区内の2,100㎡を対象に、トレンチ4本を設定して実施した。

【まとめ】 試掘調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。よって、工区内の調査範囲は、保存対象外と判断した。

なお、今回の調査で、IWK-B2のすべての試掘調査は終了した。

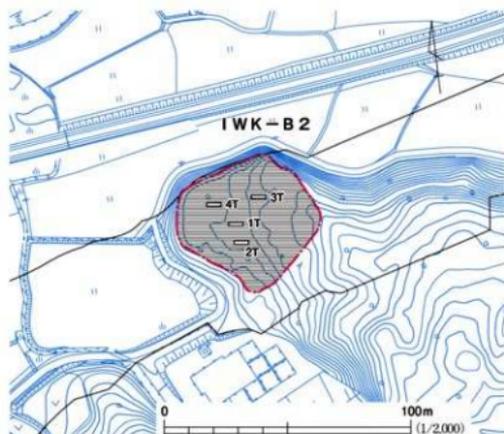


図6 IWK-B2トレンチ配置

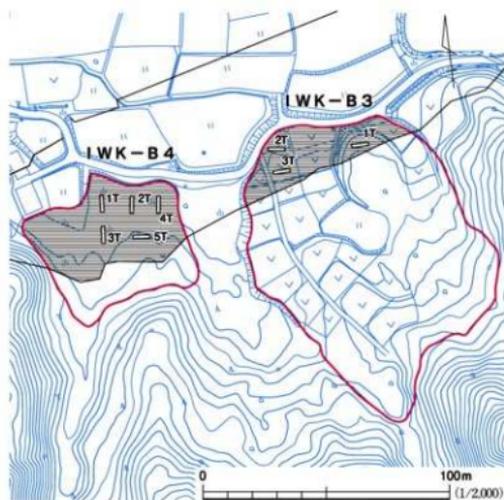


図7 IWK-B3・B4トレンチ配置

IWK-B3

所在地 いわき市添野町古防

調査対象面積 1,100㎡

保存面積 0㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし

【概要】IWK-B3は平成25年度の分布調査で新たに追加された埋蔵文化財包蔵推定地である(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。丘陵北向き斜面に立地し、現況は山林及び畑地である。

本年度の試掘調査は、工区内の1,100㎡を対象に、トレンチ3本を設定して実施した。

【まとめ】試掘調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。よって、工区内の調査範囲は、保存対象外と判断した。

なお、今回の調査で、IWK-B3のすべての試掘調査は終了した。

IWK-B4

所在地 いわき市添野町古防

調査対象面積 1,800㎡

保存面積 0㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし

【概要】IWK-B4は平成25年度の分布調査で新たに追加された埋蔵文化財包蔵推定地である

(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。丘陵北向き斜面に立地し、現況は山林及び畑地である。

本年度の試掘調査は、工区内の1,800㎡を対象に、トレンチ5本を設定して実施した。

【まとめ】試掘調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。よって、工区内の調査範囲は、保存対象外と判断した。なお、今回の調査で、IWK-B4のすべての試掘調査は終了した。

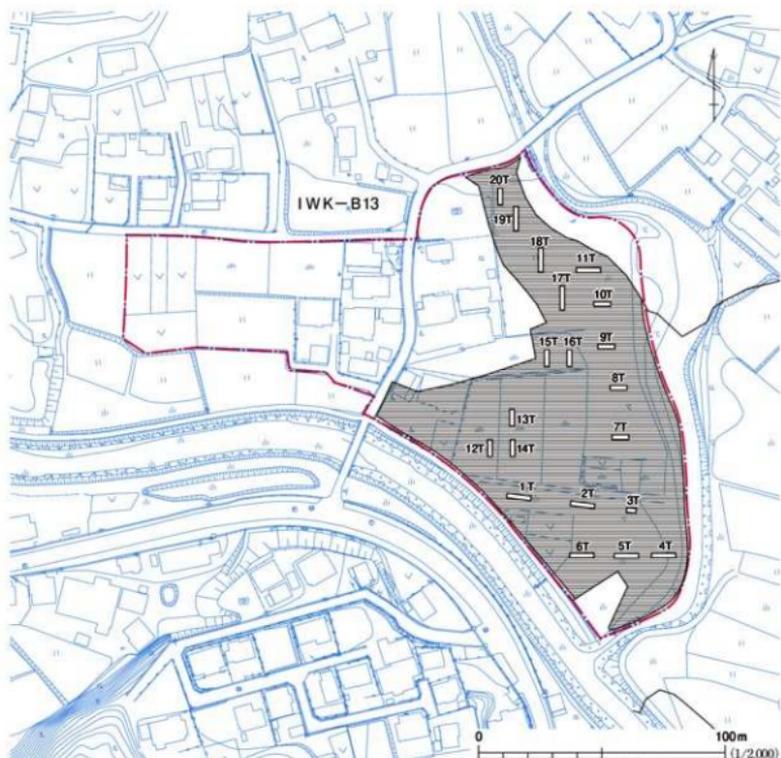


図8 IWK-B13トレンチ配置

IWK-B13

所在地 いわき市山田町砂方

調査対象面積 11,300㎡

保存面積 0㎡

検出遺構 なし

出土遺物 なし

【概要】 IWK-B13は、平成25年度の分布調査で新たに追加された埋蔵文化財包蔵推定地である（『福島県内遺跡分布調査報告21』）。鮫川支流の山田川に面した低位段丘面に立地し、現況は畑地及び水田である。小名浜道路建設予定地の西端で、県道20号にアクセスする位置にあたる。

本年度の試掘調査は、工区内の11,300㎡を対象に、トレンチ20本を設定して実施した。

【まとめ】 試掘調査の結果、遺構・遺物は確認できなかった。よって、工区内の調査範囲は、保存対象外と判断した。

なお、今回の調査で、IWK-B13のすべての試掘調査は終了した。

第3節 只見川河川整備事業（片門地区～滝沢地区）建設予定地

只見川河川整備事業は、平成23年7月27日～30日の新潟・福島豪雨で甚大な洪水被害を受けた流域5町（会津坂下町、柳津町、三島町、金山町、只見町）の計24地区を対象に、新たな堤防の整備や川幅の拡幅を実施するものである。現在、福島県土木部会津若松建設事務所が会津坂下町～金山町の20地区、福島県土木部南会津建設事務所が只見町の4地区の事業を進めている。

本事業に係る分布調査は、平成30年度に会津坂下町片門地区～金山町滝沢地区を対象に実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地9箇所及び、新規の埋蔵文化財包蔵推定地11箇所を確認した（『福島県内遺跡分布調査報告26』）。さらに、本年度は越川地区の工区変更により、急速、埋蔵文化財包蔵推定地1箇所（KY-B6）を追加した。

本年度の試掘・確認調査は、金山町横田地区における周知の埋蔵文化財包蔵地1箇所、越川地区における埋蔵文化財包蔵推定地1箇所、計2箇所で行った。

中丸城跡

所在地 金山町大字横田

調査対象面積 2,600㎡

保存面積 未確定

検出遺構 小穴

出土遺物 なし

【概要】 中丸城跡は、中世山ノ内氏の支配拠点であり、只見川沿いの伊夜彦神社に隣接する低位段丘面が居館、急峻な背後丘陵が山城に比定されている（『金山町の文化財』）。

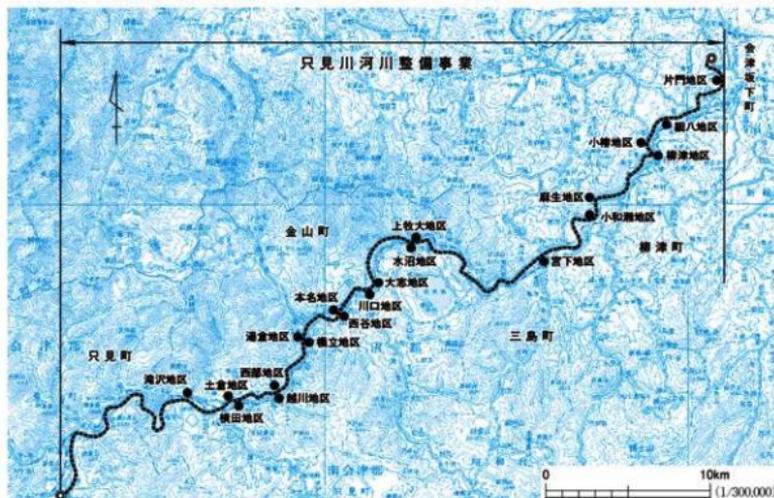


図9 只見川河川整備事業（片門地区～滝沢地区）

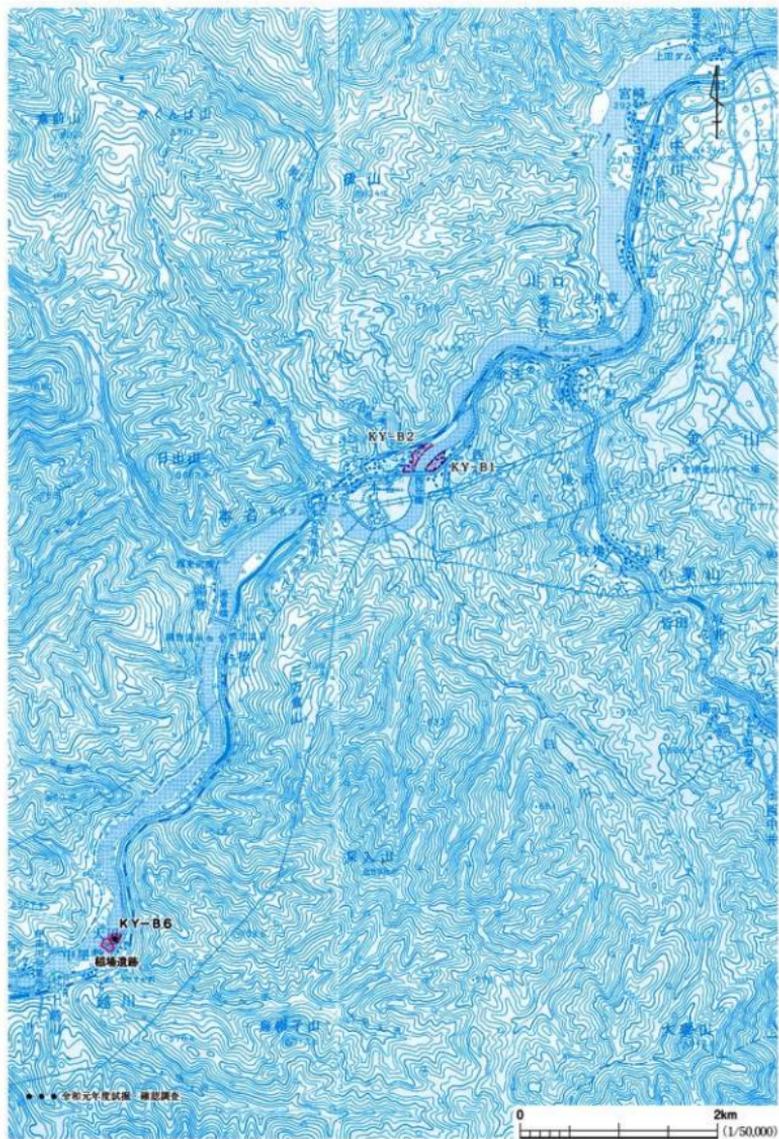


図10 金山町の遺跡（1）

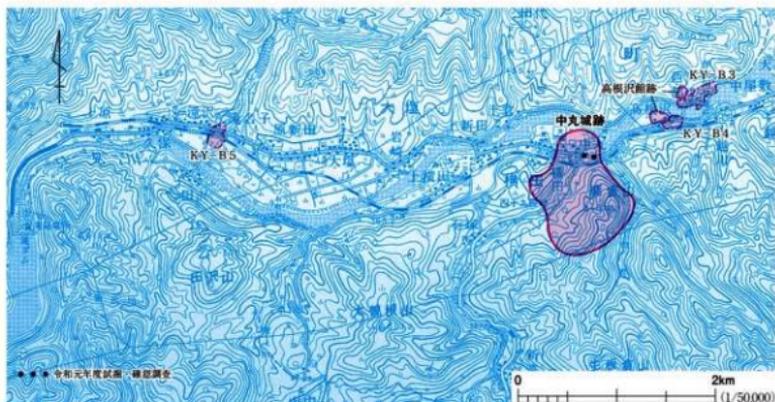


図11 金山町の遺跡（2）



1 中丸城跡 6 T小穴検出（東から）



2 中丸城跡 6 TP1断面（南から）

本年度の確認調査は、工区内の低位段丘面2600㎡を対象に、トレンチ7本を設定して実施した。その結果、6 Tから地表下約40cmの深さで小穴9基を検出した。平面形は径12～18cmの円形を呈し、P1・7の2基



図12 中丸城跡検出遺構・土層

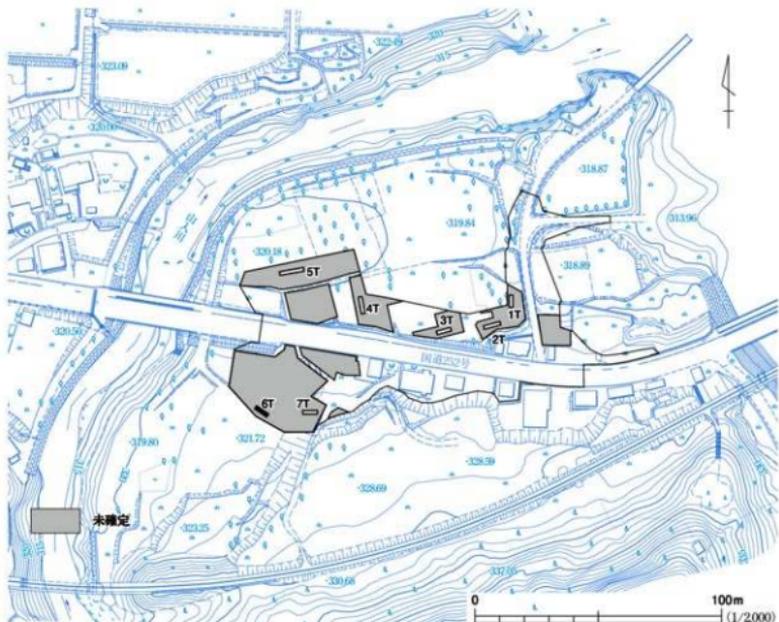


図13 中丸城跡トレンチ配置

では、深さ30cm程度の壁の立ち上がりを確認した。規則的配置は認められないものの、中丸城跡に伴う掘立柱建物跡の柱穴の可能性が有る。遺物は、他のトレンチを含め出土していない。

【まとめ】 確認調査の結果、遺構を確認した6Tを中心に遺構分布が広がることが判明した。しかし、今回の調査面積は工区内の対象面積全体に占める割合が小さいため、保存範囲は未確定とし、次年度以降の調査結果を待って判断することとした。

KY-B6

所在地 金山町大字越川

調査対象面積 900㎡

検出遺構 なし

【概要】 KY-B6は、本年度の越川地区の工区変更で新たに追加された埋蔵文化財包蔵推定地である。縄文時代晩期の周知の埋蔵文化財包蔵地である稲場遺跡の北側に隣接している。立地

表5 中丸城跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構		出土遺物
	種類(時代)	確認面までの深さ	
6T	小穴(中世)	40cm	○

保存面積 未確定

出土遺物 縄文土器・剥片

表6 KY-B6トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構		出土遺物
	種類(時代)	確認面までの深さ	
1T		40cm	縄文土器・剥片

は、只見川に突き出した低位段丘面で、現況は畑地である。

本年度の試掘調査は、工区内の900㎡を対象に、トレンチ1本を設定して実施した。その結果、遺構は検出されなかったものの、地表下約20～40cmの暗褐色土中から、縄文時代晩期のもつみられる燃糸文を施した縄文土器小片、剥片が出土した。

【まとめ】 試掘調査の結果、稲場遺跡と同時期の遺物の包蔵を確認することができた。このことから、

1T周囲には縄文時代晩期の遺構が存在する可能性が



3 KY-B6 現況（南東から）

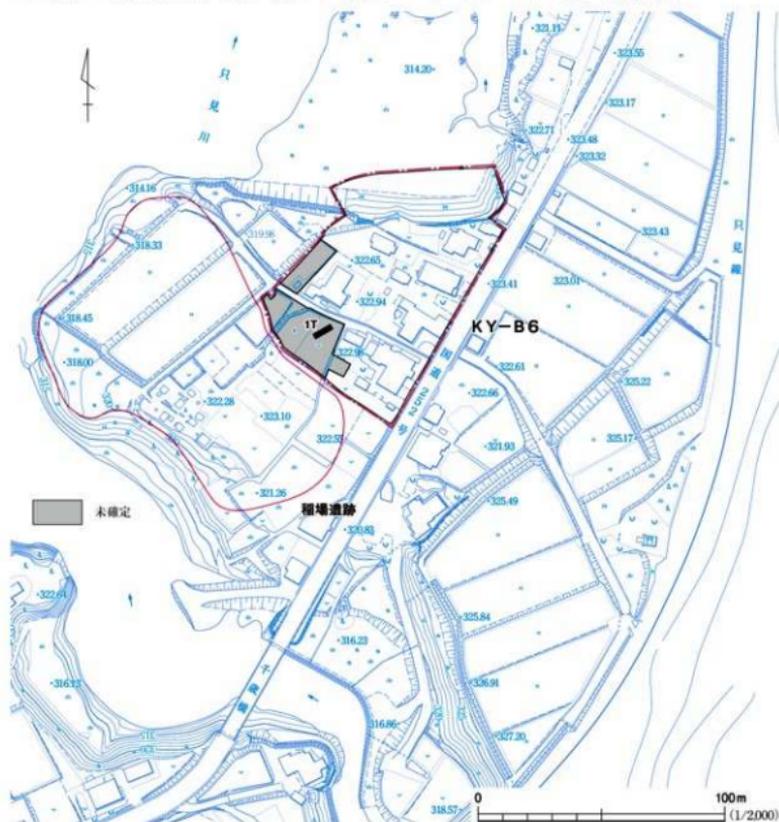


図14 KY-B6トレンチ配置

ある。しかし、今回の調査面積は、工区内の対象面積全体に占める割合が小さいため、保存範囲は未確定とし、次年度以降の調査結果を待って判断することとした。

第4節 阿武隈川上流河川改修事業(黒田地区・御代田地区)建設予定地

阿武隈川上流河川改修事業は、平成23年9月13日の豪雨で甚大な洪水被害を受けた流域地区を対象に、家屋などへの被害が生じる無堤箇所や堤防幅・強度の不足箇所において河道の目標流量を安全に流下させるために、堤防の整備を実施するものである。現在、国土交通省東北地方整備局福島河川国道事務所が事業を進めている。対象となるのは、郡山市(黒田地区・御代田地区)における周知の埋蔵文化財包蔵地2箇所である。本事業に係る試掘・確認調査は平成29年度に周知の埋蔵文化財包蔵地1箇所、平成30年度に同じ周知の埋蔵文化財包蔵地1箇所で行った(『福島県内遺跡分布調査報告25』、『同26』)。その結果、保存対象箇所は確認できなかった。本年度は、郡山市における周知の埋蔵文化財包蔵地2箇所で行った調査を実施した。

1 郡山市の遺跡

黒田遺跡

所在地 郡山市西田町鬼生田字黒田

調査対象面積 27,100㎡

保存面積 1,800㎡

検出遺構 土坑

出土遺物 縄文土器・剥片

【概要】 黒田遺跡は、昭和57年度に、郡山市教育委員会が国営郡山東部開拓事業に伴う発掘調査を実施し(『郡山市東部Ⅲ』)、縄文時代、奈良・平安時代、中世にまたがる複合遺跡であることが判明している。その後、同教育委員会が平成12年度に阿武隈川右岸築堤工事に係る確認調査を実施した結果、保存対象箇所は確認されなかった。現況は、水田・畑地・荒地である。

本年度の確認調査は、阿武隈川河川敷の27,100㎡を対象に、トレンチ55本を設定して実施した。その結果、45 Tの地表下25cmから土坑1基、46 Tの地表下25～30cmから土坑2基を検出した。それらの平面形は、長軸120～130cm、短軸50～60cmの長楕円形を呈しており、縄文時代の落し穴と考えられる。このうち45 Tの土坑については、35cmまでの壁の立ち上がりを確認した。また、遺物は24・27 Tの地表下75～100cmから



4 黒田遺跡 現況(北西から)



5 黒田遺跡 24 T遺物出土状況(北西から)

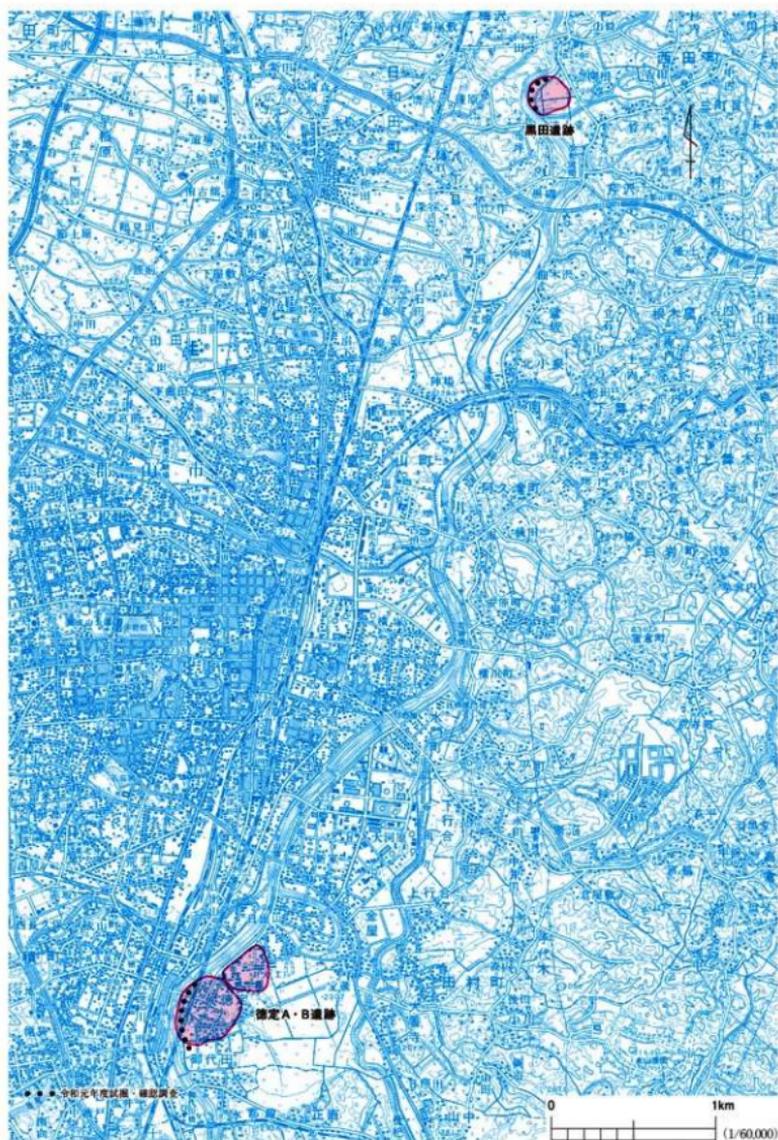


図15 郡山市の遺跡

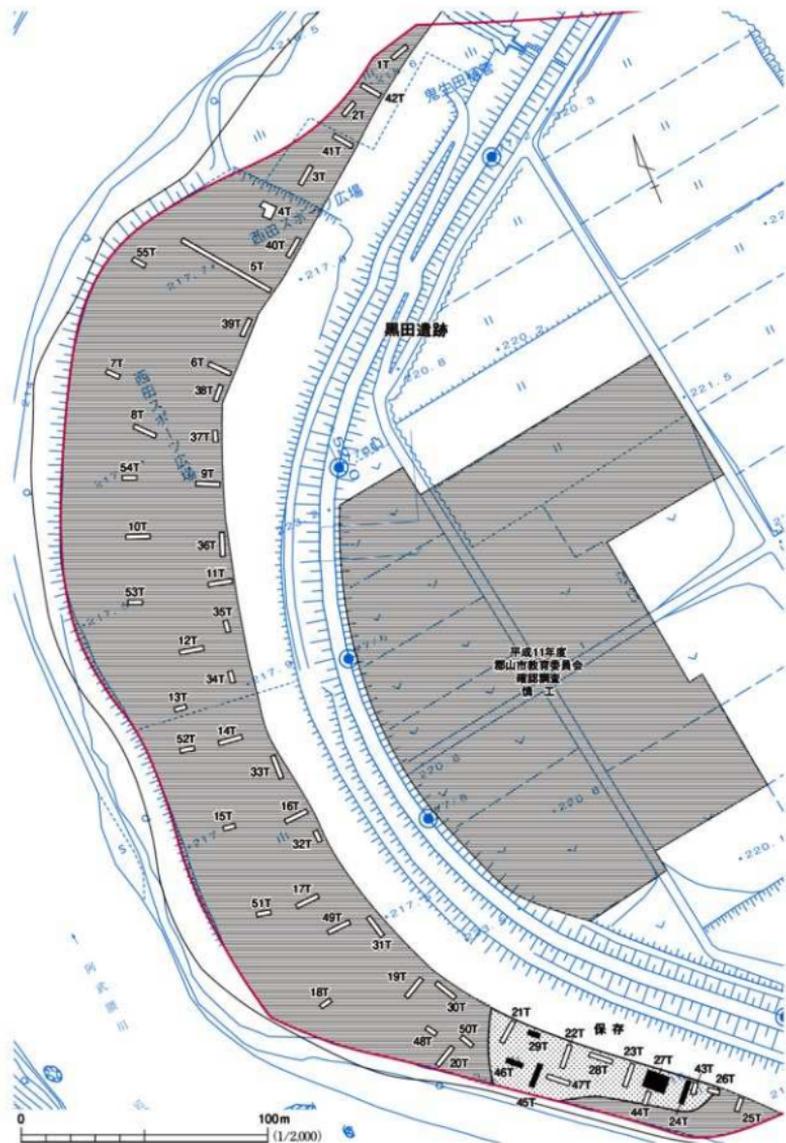


図16 黒田遺跡トレンチ配置

表7 黒田遺跡トレンチ一覧

トレンチ番号	検出遺構			出土遺物
	種別 (時代)	確認面までの深さ	遺構内掘込み	
24T		145cm		縄文土器
27T		70cm		縄文土器
29T		90cm		剥片
45T	土坑	30cm	○	
46T	土坑	25cm	×	



6 黒田遺跡 46T土坑検出状況（南から）

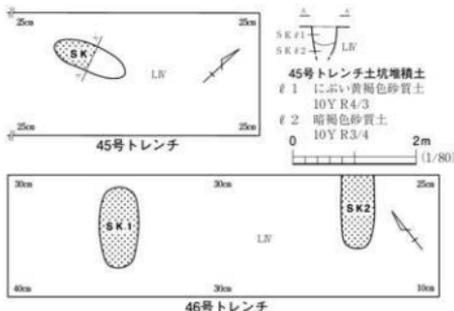


図17 黒田遺跡検出遺構・土層・出土遺物

縄文早期末～前期初頭の土器片、29Tの地表下55～80cm下から剥片が出土した。

【まとめ】確認調査の結果、遺構・遺物を確認した24・27・29・45・46Tを中心とする同一地形の範囲(1,800㎡)については、保存の必要がある。また、その他の箇所については保存対象外とした。今回の調査で、黒田遺跡のすべての確認調査は終了した。

徳定A・B遺跡（第3次調査）

所在地 郡山市田村町徳定・御代田

調査対象面積 4,000㎡

保存面積 3,000㎡

検出遺構 土坑・溝跡・小穴

出土遺物 土器器

【概要】徳定A・B遺跡は、周知の埋蔵文化財包蔵地である。昭和47・50・51年度に、福島県教育委員会が東北新幹線建設に伴う発掘調査を実施し（『東北新幹線関連遺跡発掘調査報告Ⅲ』）、平成17年度以降は、郡山市教育委員会が徳定地区土地区画整理事業に伴う確認調査及び発掘調査を継続的に実施している（『徳定A・B遺跡－第1・2次発掘調査報告－』ほか）。その結果、古墳時代～平安時代を主体とした福島県を代表する集落跡に位置付けられている。現況は水田・畑地・宅地である。

本事業に係る確認調査は、平成29年度に工区内の4,900㎡、平成30年度に工区内の2,000㎡を対象に実施したが、保存対象範囲は確認できなかった。

本年度の確認調査は、工区内の4,000㎡を対象にトレンチ10本を設定して実施した。その結果、1Tから地表下約30～35cmで小穴6基、2Tから地表下30～35cmで土坑1基・小穴1基、3Tから地表下約50～75cmで小穴3基、8Tから地表下約30～50cmで土坑4基、溝跡1条、小穴2基を検出し、5・6・8Tから



7 徳定A・B遺跡 現況 (南から)



8 徳定A・B遺跡 8T溝跡検出 (北東から)

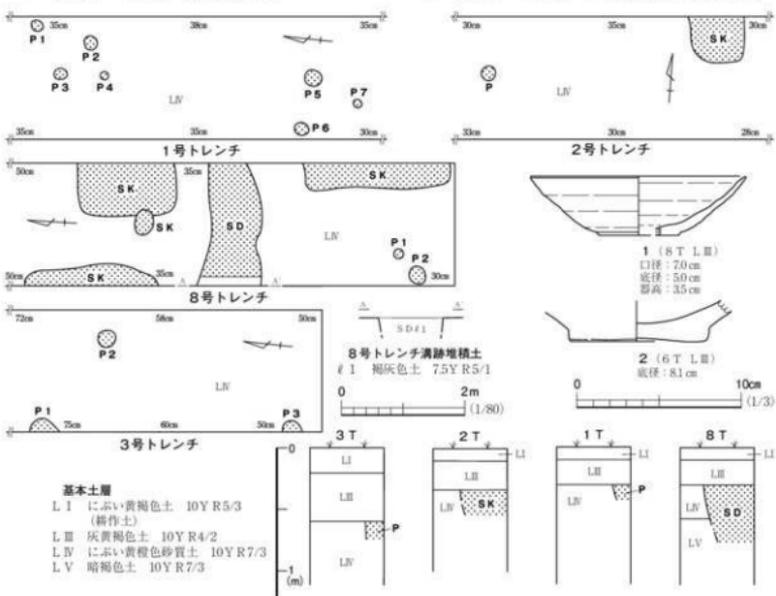


図18 徳定A・B遺跡検出遺構・土層・出土遺物

古墳～平安時代の土師器片が出土した。この状況から、南から北へ向かって低く傾斜する旧地形が読み取れる。なお、1 T以南は下層遺構面が無いことを確認したが、2 T以北は激しい湧水で確認できなかった。

【ま と め】 調査の結果、遺構・遺物を確認した1～3・5・6・8 Tを中心とした範囲(3,000㎡)については、保存の必要がある。その他の箇所については保存対象外とした。

なお、未調査範囲(3,400㎡)は、現地協議で保存対象外と判断したため、本年度で、建設予定地内の徳定A・B遺跡のすべての確認調査は終了した。

表8 徳定A・B遺跡トレンチ一覧

トレンチ 番号	検出遺構		遺構内 掘込み	出土遺物
	種 類 (時 代)	確認面ま での深さ		
1 T	小穴	145cm	×	土師器
2 T	土坑・小穴	70cm	×	
3 T	小穴	90cm	×	
5 T		30cm		
6 T		25cm		
8 T	土坑・溝跡・小穴		○	



9 徳定A・B遺跡 作業風景 (西から)

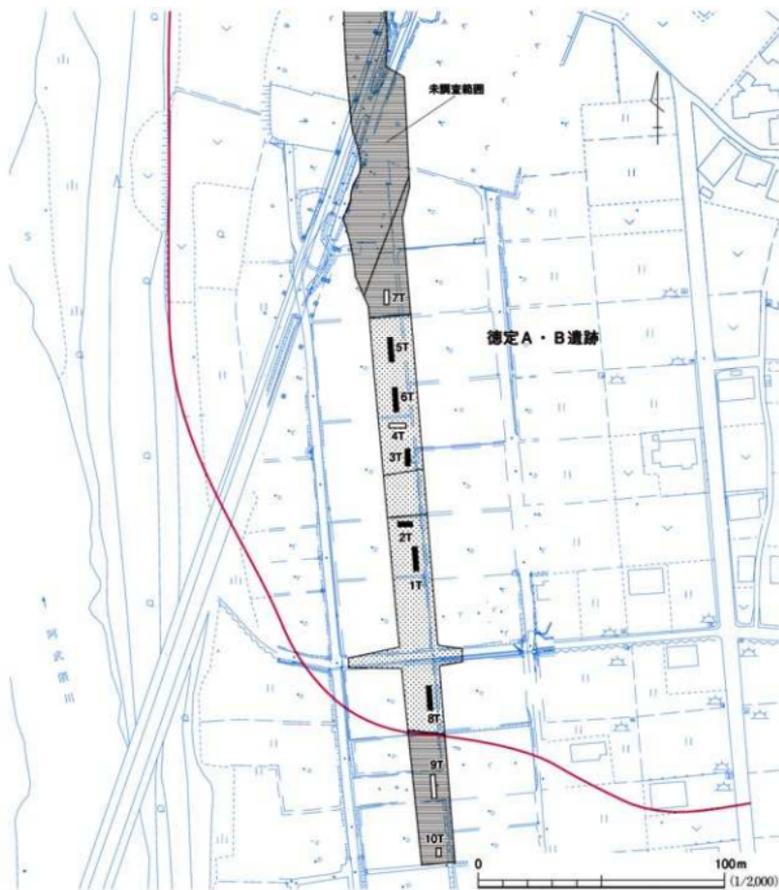


図19 徳定A・B遺跡トレンチ配置

第3章 総 括

令和元年度は、試掘・確認調査を4事業(2市2町)の周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地
で実施した。これらの調査は、令和元年5月下旬から11月上旬の期間で行った。試掘・確認調査の結果、
計2箇所で開催を要する範囲が確定した。また、計2箇所が未確定となり、次年度以降の周辺調査を待って
保存を要する範囲を判断することとした。

以下、各事業の令和元年度の試掘・確認調査成果を表9～12にまとめたが、提示した調査対象面積、保
存面積、未発掘面積などは、今後の工事計画の変更により、変動する可能性がある。

1 国道349号改良工事(下関地区)建設予定地

大浜地区から埴町に至る区間で計画されている国道349号改良工事は、平成24年度から矢祭町教育委員会
が埋蔵文化財に関する調査を進め、平成29年度に福島県教育委員会がこれを引き継ぐ形で、下関工区の宮
平遺跡、下町遺跡、田中前遺跡の4箇所、平成30年度に下町遺跡、下古宿遺跡の2箇所を対象に確認調査
を実施した。その結果、宮平遺跡では保存面積(2300㎡)が確定した(『福島県内遺跡分布調査報告25』)。

【矢 祭 町】 同町地内の国道349号改良工事(下関地区)に係る試掘・確認調査は、宮平遺跡の1箇所で行
実施した。その結果、保存対象箇所は確認できず、宮平遺跡の確認調査は終了した。

以上により、平成29年度から開始した本事業に係る埋蔵文化財の試掘・確認調査はすべて終了した。

表9 国道349号改良工事関連試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(矢祭町)

No	道 路 名	試掘調査		遺跡工区内 面積(㎡)	年度別調査対象面積		未試掘 面積(㎡)	保存 面積(㎡)	備 考		
		終	未		年度	面積(㎡)				報告書	
1	宮平	●		3,500	H29 R1	2,400 1,100	[限内分25] (4頁)	0	2,300	保存(2,300㎡)は、H28矢祭町調査成果を含む H30(2,300㎡)本発掘調査実施	
2	下町	●		5,900	H29 H30	2,300 3,600	[限内分25] [限内分26]	0	0		
3	下古宿	●		3,000	H30	3,000	[限内分26]	0	0		
4	田中前	●		3,600	H29	3,600	[限内分25]	0	0		
矢祭町 計				4	1	0	16,000	終了	16,000	0	2,300
					R	1	1,100			0	

2 主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)建設予定地

主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)は、いわき市小名浜浜と常磐自動車道を結ぶ全長8.3kmの自
動車専用道路である。本事業に係る分布調査は平成25年度に実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地3箇所と新
規の埋蔵文化財包蔵推定地13箇所を確認した(『福島県内遺跡分布調査報告21』)。その後、試掘・確認調査は、
平成27年度に江畑館跡の1箇所、平成29年度に江畑堀ノ内館跡、1WK-B10の2箇所、平成30年度に泉
大平遺跡、1WK-B1、1WK-B11の3箇所で行ったが、保存を要する範囲はなかった(『福島県内
遺跡分布調査報告23』、『同25』、『同26』)。

【いわき市】 本年度の同市地内の主要地方道いわき上三坂小野線(小名浜道路)に係る試掘・確認調査は、
1WK-B2、1WK-B3、1WK-B4、1WK-B13の4箇所で行った。その結果、保存を要す

る箇所はなかった。

以上のことから、いわき市内の小名浜道路で令和2年度以降、試掘・確認調査の対象となる周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地は、計2箇所、試掘・確認調査が必要な未試掘面積の合計は、3,100㎡である。

表10 主要地方道いわき上三坂小野線開通試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(いわき市)

No	遺跡名	試掘調査		遺跡工区内 面積(㎡)	年度別調査対象面積		未試掘 面積(㎡)	保存 面積(㎡)	備 考		
		終	未		年度	面積(㎡)				報告書	
1	泉大平	●		3,200	H30	3,200	【昭内分26】	0	0	H30工事計画の変更により、工区内面積増加	
2	1WK-B1	●		5,800	H30	5,800	【昭内分26】	0	0	H30工事計画の変更により、工区内面積増加	
3	1WK-B2	●		2,100	R1	2,100	(7頁)	0	0	R1工事計画の変更により、工区内面積増加	
4	1WK-B3	●		1,100	R1	1,100	(7頁)	0	0	R1工事計画の変更により、工区内面積増加	
5	1WK-B4	●		1,800	R1	1,800	(7頁)	0	0	R1工事計画の変更により、工区内面積増加	
6	1WK-B5	●	●	2,000	-	-	-	2,000	-		
7	1WK-B6	●	●	1,100	-	-	-	1,100	-		
8	江須町 船/内船跡	●		10,100	H29	10,100	【昭内分25】	0	0	H29工事計画の変更により、工区内面積増加	
9	江須船跡	●		10,000	H27	10,000	【昭内分24】	0	0		
10	1WK-B10	●		2,600	H29	2,600	【昭内分25】	0	0	H29工事計画の変更により、工区内面積増加	
11	1WK-B11	●		400	-	-	-	0	0	H30現地協議により、試掘対象外	
12	1WK-B13	●		11,300	R1	11,300	(8頁)	0	0	H30工事計画の変更により、工区内面積増加	
いわき市 計				10	0	2	51,500	終了	48,000	3,100	0
							R1	16,300			0

3 只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)建設予定地

只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)は、平成23年の新潟・福島豪雨で甚大な被害を受けた流域を対象に、新たな堤防の整備や川幅の拡幅を実施するものである。本事業に係る分布調査は平成30年度に実施し、周知の埋蔵文化財包蔵地9箇所と新規の埋蔵文化財包蔵推定地11箇所を確認した(『福島県内遺跡分布調査報告26』)。さらに、本年度は越川地区の工区変更により、埋蔵文化財包蔵推定地1箇所を追加した。

【金山町】同町地内の只見川河川整備事業(片門地区～滝沢地区)に係る試掘・確認調査は、中丸城跡、KY-B6の2箇所で行った。その結果、どちらも保存面積は未確定となり、次年度以降の調査成果を待つ、判断することとした。

以上のことから、金山町地内の只見川河川整備事業で令和2年度以降、試掘・確認調査の対象となる周知の埋蔵文化財包蔵地及び埋蔵文化財包蔵推定地は、計9箇所、現在判明している試掘・確認調査が必要な

表11 只見川河川整備事業関連試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(金山町)

No	遺跡名	試掘調査		遺跡工区内 面積(㎡)	年度別調査対象面積		未試掘 面積(㎡)	保存 面積(㎡)	備 考		
		終	未		年度	面積(㎡)				報告書	
1	KY-B1		●	-					工区範囲未確定		
2	KY-B2		●	-					工区範囲未確定		
3	稲場遺跡		●	-					工区範囲未確定		
4	KY-B6	●		6,400	R1	900	(9頁)	5,500	0		
5	KY-B3		●	-					工区範囲未確定		
6	高根沢船跡		●	-					工区範囲未確定		
7	KY-B4		●	-					工区範囲未確定		
8	中丸城跡	●		7,300	R1	2,600	(12頁)	4,700	0		
9	KY-B5		●	-					工区範囲未確定		
金山町 計				0	2	7	13,700	終了	3,500	10,200	0
							R1	3,500			0

未試掘面積の合計は、10,200㎡である。

4 阿武隈川上流河川改修事業（黒田地区・御代田地区）建設予定地

阿武隈川上流河川改修事業は、洪水被害を受けやすい流域地区を対象に、新たな堤防の整備や川幅の拡幅を実施するものである。本事業に係るのは、周知の埋蔵文化財包蔵地2箇所である。試掘・確認調査は、平成29年度及び平成30年度に徳定A・B遺跡を対象に実施した。その結果、保存を要する範囲はなかった〔福島県内遺跡分布調査報告25・26〕。

【郡山市】本年度の同市地内の阿武隈川上流河川改修事業(黒田地区・御代田地区)に係る試掘・確認調査は、黒田遺跡、徳定A・B遺跡の2箇所で行った。その結果、黒田遺跡で保存面積(1,800㎡)、徳定A・B遺跡で保存面積(3,000㎡)が確定した。

以上のことから、平成29年度から開始した本事業に係る埋蔵文化財の試掘・確認調査はすべて終了した。

表12 阿武隈川上流河川改修事業関連試掘・確認調査対象遺跡成果一覧(郡山市)

No	遺跡名	試掘調査		遺跡区内面積(㎡)	年度別調査対象面積		未試掘面積(㎡)	保存面積(㎡)	備考	
		終	未		年度	報告書				
1	黒田遺跡	●		27,100	R1	27,100	(14頁)	0	1,800	
2	徳定A・B	●		14,300	H29	4,900	[限内分25]	0	3,000	R1現地協議により、3,400㎡を調査対象外
					H30	2,000	[限内分26]			
					R1	4,000	(17頁)			
郡山市計		2	0	41,400	終了	38,000		0	0	
					R1	31,100		0		

引用・参考文献

- 金山市教育委員会1990『金山市の文化財』
 郡山市教育委員会2000『郡山市埋蔵文化財分布調査報告7』
 郡山市教育委員会1983『郡山東部Ⅲ 穴沢地区遺跡』
 郡山市教育委員会2014『徳定A・B遺跡 第1・2次発掘調査報告』
 郡山市教育委員会2015『徳定A・B遺跡 第3・4次発掘調査報告』
 福島県教育委員会1981『東北新幹線関連遺跡発掘調査報告Ⅲ(徳定遺跡)』
 福島県教育委員会1988『福島県の中世城館跡』
 福島県教育委員会1996『福島県遺跡分布地図 会津地方』
 福島県教育委員会1996『福島県遺跡分布地図 中通り地方』
 福島県教育委員会1996『福島県遺跡分布地図 浜通り地方』
 福島県教育委員会2014『福島県内遺跡分布調査報告21』
 福島県教育委員会2016『福島県内遺跡分布調査報告23』
 福島県教育委員会2017『福島県内遺跡分布調査報告24』
 福島県教育委員会2018『福島県内遺跡分布調査報告25』
 福島県教育委員会2019『福島県内遺跡分布調査報告26』
 矢祭町教育委員会2002『高波遺跡発掘調査報告-国道349号改良工事に伴う発掘調査報告書1-』
 矢祭町教育委員会2003『下平遺跡発掘調査報告-国道349号改良工事に伴う発掘調査報告書2-』
 矢祭町教育委員会2004『岡野田遺跡発掘調査報告-国道349号改良工事に伴う発掘調査報告書4-』
 矢祭町教育委員会2014『上関上ノ台遺跡発掘調査報告-国道349号改良工事に伴う発掘調査報告書-』
 矢祭町教育委員会2017『中山遺跡発掘調査報告-国道349号改良工事に伴う発掘調査報告書-』

報告書抄録

ふりがな	ふくしまけんないせきぶんぶしょうさほうこく27							
書名	福島県内遺跡分布調査報告27							
シリーズ名	福島県文化財調査報告書							
シリーズ番号	第543集							
編著者名	福島県教育庁文化財課：阿部智彦 公益財団法人福島県文化振興財団：菅原祥夫							
発行機関	福島県教育委員会 〒960-8688 福島県福島市杉妻町2-16 TEL 024-521-1111							
発行年月日	2020年10月9日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯*1	東経*1	発掘期間	発掘面積*2 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
宮平遺跡	福島県東白川郡矢野町大字 宮平河内	07842	00068	36° 50' 25"	140° 26' 2"	20190527～20190528	460	確認調査
IWK-B2	福島県いわき市田沼町大字	07204	なし	36° 56' 20"	140° 48' 44"	20190617～20190618	360	試掘調査
IWK-B3	福島県いわき市田沼町古岡	07204	なし	36° 56' 18"	140° 48' 41"	20190619	31.5	試掘調査
IWK-B4	福島県いわき市田沼町古岡	07204	なし	36° 56' 18"	140° 48' 36"	20190620～20190621	900	試掘調査
IWK-B13	福島県いわき市山田町砂方	07204	なし	36° 57' 7"	140° 46' 7"	20191125～20191203	322.5	試掘調査
甲丸城跡	福島県大沼郡金山町大字旗田	07445	00023	37° 23' 38"	139° 26' 55"	20190907～20190911	70.5	確認調査
KY-B6	福島県大沼郡金山町大字旗田	07445	なし	37° 24' 5"	139° 28' 14"	20190912～20190913	14.4	試掘調査
黒田遺跡	福島県郡山市西田町鬼生田字 黒田	07203	00154	37° 27' 19"	140° 25' 12"	20190902～20191016	1,001.0	確認調査
徳定A・B遺跡	福島県郡山市田村町徳定・ 新代田	07203	00562	37° 21' 5"	140° 22' 22"	20191101～20191108	1520	確認調査
特記事項	阿武隈川上流河川改修事業建設予定地内(郡山市)の黒田遺跡で確認調査を実施したところ、縄文時代の遺構・遺物を確認したため、建設予定地内の1,800㎡を保存協議を要する範囲とした。 また、同予定地内(郡山市)の徳定A・B遺跡で確認調査を実施したところ、古墳・奈良・平安時代の遺構・遺物を確認したため、建設予定地内の3,000㎡を保存協議を要する範囲とした。							
要項	福島県教育委員会が令和元年度に実施した、国道349号改良工事・小名浜道路・只見川河川整備事業・阿武隈川上流河川改修事業建設予定地内の周知の埋蔵文化財及び埋蔵文化財推定地を対象とする試掘・確認調査の報告書である。 52,000㎡を対象とした試掘・確認調査の結果、周知の埋蔵文化財包蔵地2箇所(合計面積4,800㎡)について保存が必要と判断した。また、只見川河川整備事業では、1件の周知の埋蔵文化財包蔵地、1件の埋蔵文化財包蔵推定地の判断を未確定とした。							

*1 経緯度数値は世界測地系(平成14年4月1日から適用)による。 *2 トレンチ掘削面積を示す。

福島県文化財調査報告書第543集

福島県内遺跡分布調査報告 27

令和2年10月9日発行

発 行 福島県教育委員会

〒960-8688 福島市杉妻町2-16

印 刷 株式会社山川印刷所

〒960-2153 福島市庄野字清水尻1-10

2020